

健康情報ひろばの1号館（新病院棟）への移転

みたに み え こ
三谷三恵子

(信濃町メディアセンター主任)

あかほり み わ こ
赤堀美和子

(信濃町メディアセンター)

信濃町メディアセンターが運営を担当する、慶應義塾大学病院内の健康情報ひろば（以下「ひろば」とする）は、2018年5月7日の新病院棟オープンに伴い、1号館1階ラウンジの奥、ブロック受付1E（救急科、総合診療科、感染症外来）の向かいに移転した。

ひろばを1号館のラウンジスペースに移転する計画が病院管財課から伝えられたのは施工中（新棟建築中）2016年12月であった。図面でおおよその場所が示され、患者さんが快適に過ごすことのできるレイアウト案と、新規に購入が必要な什器類をメディアセンターで検討するよう依頼された。そこで、日ごろ患者さんの対応をしているボランティアスタッフの意見も聞いて、什器、レイアウト案を作成した。病院管財課との間で何度か打ち合わせを行い、本棚とパンフレット配布棚、業務用椅子2脚を新規購入し、患者さん用のテーブルと椅子（4脚）2セット、特注のパソコンデスク3台、業務用デスクとキャビネット、PCとコピー機は既存のものを移設することにした。購入することになった本棚とパンフレット配布棚は、既製品では条件に合うものがなく、業者に制作を依頼した。本棚の要件として、1）開室時間中は全面を開架でき、スタッフ不在の時間帯は施錠できること、2）車椅子の方が座ったままでも1番上の棚に手が届く高さであることなどを挙げた。その結果、既成のスチール製シャッター付キャビネットと引き出しのパーツを上下に組み合わせ、さらに天板と背面に木調のフレームを取り付けることで機能、外観ともに要望に近い本棚が実現した。一方、パンフレット配布棚の要件としては、1）製薬会社などから提供される多種多様なパンフレット類を面出しで展示できる、2）棚の外観と高さを本棚と合わせる、3）約300種のパンフレットを展示できることなどを挙げた。図書館用書架の専門業者

に1連4段のうち、上2段を面出し用棚、下2段を通常棚として特注で制作を依頼した。

引っ越しは、5月1～2日の病院の移転作業のための臨時休診日にボランティアスタッフの協力を得て作業を行った。新しいひろばは以前よりも広く、ゆったりとしたスペースとなり、ラウンジの雰囲気と調和するマホガニーの木調書架に囲まれ、静かに本を読み、調べものをするのには最適の場所である。オープン当初は、診療受付や薬局、会計など一連の外来患者さんの動線から離れたことや、1号館へ移転しない外来施設などもあり、利用者数が減少したが、患者さんが1号館に慣れるにしたがって徐々に増えてきている。

ひろばのオープンに合わせ、より広くサービスを知ってもらうためにLibGuidesを使ったひろばのWebサイト（<http://libguides.lib.keio.ac.jp/hiroba/>）を2018年5月末に公開した。

ボランティアスタッフは、患者さんが声をかけやすい存在のようで、お話することで考えがまとまり、気持ちが落ち着かれる方もいる。医療情報収集のお手伝いと様々に傾聴も大切なひろばの役割になっている。新しいひろばが患者さんの癒しの場となるように心がけてサービスを行っていきたい。



1号館へ移転後のひろば